

研究紀要第26号

ひとりひとりを生かす保育

——「子どもと共に創る生活」を通して——

1 9 9 0

島根大学教育学部附属幼稚園

は じ め に

教育の意味について、オランダの教育学者、M. J. ランゲフェルドは、その著、「教育と人間の省察」の冒頭で次のように説き起こしております。「人間が教育ということを一すなわち、子どもひとりひとりの独自の存在様態を的確に見極め、それに基づいて、彼等がそれぞれに個性の人格へと成熟してゆけるよう、極力助成するということを一理論的にも実践的にも真にリアルならしめるに至ったのは、実はごく最近になってからなのである」と。なお、この文脈に沿って見ると、「人間が自らの子どもについて、その弱さとともに、依存・服従・保護されるべき者としてしか立ち現れることがなかった存在としての子どもが、漸く世の前面に脚光を浴びるに到るのは、20世紀のエレン・ケイの「児童の世紀」を待たねばならなかった」という歴史的経緯については既によく識られているとおりで。この世紀の幕開けは、進歩的な新教育の思潮と気運を一層に際立たせ、それまでの教師の権威と教科書の占有する不動の座を子どもを中心とする教育思想によって置き替えた事実は、教育の民主化、近代化に対して決定的な意味をもつものと思われま。したがって、ここでは、ひとりひとりの独自性、個性の尊重は自己実現に於ける自由が前提されなければならず、こうした教育観、子ども観にもとづく教育～保育実践の具体的展開は、直接保育研究の課題性とも本質的に一致するものと考えま。それは子ども達がまわりの事物について積極的な関心を示し、自発的な遊びや活動、そして労作の諸活動を通じて発展的に自己実現を試みる中で、その自然な子どもの活動要求の方向に従って、保育者自身が受容的、かつ支持的な援助を与える保育姿勢のイメージに適合するものでもあるからで。

一方、J. デューイは、その「児童研究」論（「アメリカの幼稚園運動」キルパトリック他）において子どもに関する科学的関心の側面について、子どもの姿を科学的視察から見るとき、「まづもって子どもを一個の人格として、一層ありのままに見ることになる」ことを指摘するとともに、「われわれ（大人）にとってでなく子ども自身にとって意味のあるものとして扱われるべきなのだ。」との見解を述べています。「実際、われわれは小さな子どもになるべきだ。」という言葉は、われわれが正に子どもの目の高さでものを観なければならぬという趣旨と同義のことと思われま。

科学的にみるということは、何をどのようにみるのかが大切なのであって、子どもが表わしているものは子ども自身にとって意味のあるものとして扱われるべきだと言えます。

それはまた、子ども自身が感じ、思い、願い、欲し、行為する子どもにおける実存として全生活の中に位置づけることが不可避的な事実なのだということを物語るものだと思います。

「子どもと共に創る生活」とは、子ども自身による生活の創出と教師の確かな判断における側面的な援助の機能的統合に求められるものと考えま。

皆様の卒直なご批判、ご指導を心からお願い申し上げます。

平成元年6月

島根大学教育学部附属幼稚園長

福 井 一 明

目 次

はじめに	福井 一明
総 論	ひとりひとりを生かす保育 — 「子どもと共に創る生活」を通して —
I 研究主題について	1
1 主題追究の経過	1
II 副主題「子どもと共に創る生活」を通して — その設定と基本的な考え方	3
1 「生活」の概念について	3
2 「自分でみつけた遊び」と「課題活動」のつながり	4
3 教育課程編成についての基本的な考え方	6
III 研究の方法とねらい	7
1 方法および視点	7
2 ね ら い	8
IV 子どもが主体的に展開していった生活の諸相からとらえた要件	8
1 子どもが見出していく環境と活動の展開	9
2 友だちとのかかわりの中でつくっていく「日常的な活動」	9
3 学級の共通の課題とひとりひとりの活動のめあてとの関連	9
4 子どもの生活と活動のリズム	11
V 3年課程の教育課程	11
	文責 野津 道代
各 論	
1 自分らしさの出せる環境	青木 規子 19
— 健の成長の過程を追って —	
2 その子らしい姿を出させる指導	森山 純子 59
— 片づけ活動の実態から —	
3 子どもが主体的に展開していく活動を支える	野津 道代 99
— 劇的表現活動の姿から —	

— 研 究 同 人 —

園 長	福 寺	井 本	一 和	明 子
副 園 長	野 森	津 山	道 純	代 子
研 修 主 任	星 青	野 木	和 規	美 子
教 官	坂 高	本 橋	千 賀	子 美
”	青 安	戶 田	浩 直	美 弘
”	小	林	尚 保	惠
講 師				
”				
前 副 園 長				
前 教 官				